

中等から重症外傷疾患の退院後長期予後の調査に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2020年7月31日～2024年7月31日

〔研究課題〕 外傷における包括的長期予後データベースの構築とテーラーメイド型退院後医療の確立～中等から重症外傷疾患に対する病院生存退院後の自然史、QOL、社会復帰に関する多施設共同研究～

〔研究目的〕 中等症や重症外傷の患者様は、退院後どのように回復して社会復帰していくのか、またその後の生活の質が何によって変わるのかを調査します。

〔研究意義〕 外傷(不慮の事故)は平成30年の死因第6位であり、子供や若年層の死因の第1位、2位を占め、社会的損失の大きい健康問題です。医療や外傷診療システムの進歩により、外傷患者様の病院内死亡率は年々低下している反面、長期的な後遺症から社会復帰できない、というもう一つの大きな健康問題が生じています。特に超高齢社会である日本において、外傷患者様の長期予後・自然史は社会的にも大きな問題となり、これから高齢化を迎える世界の先駆であるという意味でも重要な課題です。

〔対象・研究方法〕 16歳以上の中等症から重症の外傷患者様で、研究期間中にドクターヘリ・ドクターカーもしくは救急車で搬送された方、また受傷後24時間以内に研究参加施設に転院搬送となった患者様を対象とします。入院中に得られた検査の結果や治療内容などを登録させていただくと共に、別途詳しい説明を行い、同意をいただいた患者様については、退院時、受傷後2ヶ月後、4ヶ月後、6ヶ月後、12ヶ月後、24ヶ月後に質問票を手渡しまたは郵送し、その時々状況を調査させていただきます。

〔研究機関名〕 当研究は日本外傷学会で認定された多施設共同研究です。主機関は独立行政法人国立病院機構水戸医療センター救急科(研究代表者:土谷飛鳥)です。その他に、東北大学、東京大学、国立国際医療研究センター、東海大学医学部附属病院、公立豊岡組合立但馬救命救急センター、日本医科大学千葉北総病院、独立行政法人国立病院機構長崎医療センター、独立行政法人国立病院機構仙台医療センター、東京医科歯科大学医学部附属病院、亀田総合病院救命救急センター、聖路加国際病院、済生会横浜市東部病院、前橋赤十字病院、埼玉医科大学総合医療センター、京都第二赤十字病院、帝京大学医学部附属病院が参加します。

〔個人情報の取り扱い〕 研究実施に係るデータを取扱う際は、対象者の個人情報とは無関係の番号を付して対応表を作成し、匿名化を行い被験者の秘密保護に十分配慮します。対応表はデータ管理責任者が医局内施錠可能な事務机引き出し内に保管します。また、研究の結果を公表する際は、被験者を特定できる情報を含まないようにします。対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。ご協力よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先

研究責任者:伊藤 香(医学部救急医学講座 講師)

住所:東京都板橋区加賀2-1-11 帝京大学医学部附属病院高度救命救急センター

TEL:03-3964-1211(代表) [内線 33129]